

野菜の需給・価格動向レポート(平成27年9月28日版)

1 主要野菜の生産出荷状況

・レポートの読み方については、注意書きを参照してください。

種類	8月の価格情報		9月の価格情報			10月 生育及び価格の10月上旬までの見通し				
	(参考) 保証基準額の算定の基 となる平均 価格	指定野菜の関 東・近畿ブ ロック 旬別平均販売 価格	(参考) 保証基準額の算定の基 となる平均 価格	指定野菜の関東・近畿ブ ロック旬別平均販売価格						
				上旬	中旬					
葉 菜 類	キャベツ	74.19	94 (127%)	74.19	105 (142%)	128 (173%)	74.19	・入荷量: 15,157t ・主産地: 群馬(79)、岩手(11)	・群馬産は、9月中旬までの曇雨天による日照不足や低温の影響で、引き続き平年よりやや少なめの出荷の見込み。岩手産は、最近の低温の影響で生育の停滞がみられるものの、病害もなく、生育は概ね順調であることから、引き続き平年並みの出荷の見込み。 ・群馬産の出荷が平年よりやや少なめと見込まれることから、平年を大幅に上回っている価格は引き続き平年を上回って推移する見込み。	
		88.91	94 (106%)	88.91	106 (119%)	129 (145%)	88.91	・入荷量: 4,117t ・主産地: 群馬(72)、長野(25)		
	ねぎ (関東は白ねぎ、 近畿は青ねぎ)	273.33	293 (107%)	273.33	330 (121%)	401 (147%)	240.04	・入荷量: 5,001t ・主産地: 青森(29)、秋田(18)、北海道(16)、茨城(13)、山形(10)、岩手(5)	・青森産は、病害の発生が見られたが、全体の出荷に影響がないため、引き続き平年並みの出荷の見込み。秋田産は、台風18号の影響もなく、太さに多少のバラツキが見られるものの、生育は順調で、引き続き平年よりやや多めの出荷の見込み。北海道産は、生育は順調で、平年より多めの出荷となっているが、9月中旬までの降雨の影響もあり、今後は平年並みの出荷の見込み。 ・青森産及び北海道産の出荷が平年並みと見込まれ、秋田産の出荷が平年よりやや多めと見込まれることから、価格は平年に近づくものの、現在平年を大幅に上回っていることから、引き続き平年を上回って推移する見込み。	
		487.13	450 (92%)	487.13	464 (95%)	607 (125%)	467.01	・入荷量: 929t ・主産地: 香川(28)、奈良(15)、三重(14)、大阪(13)、徳島(12)		
	はくさい	58.82 78.06	91 (117%)	78.06	111 (142%)	140 (179%)	56.81	・入荷量: 8,624t ・主産地: 長野(86)	・長野産は、9月中旬までの曇雨天による日照不足や低温の影響で生育が停滞していることに加え、病害の発生がやや見られたことから、現在は平年よりやや少なめの出荷となっているが、今後は増加が見込まれることから、平年並みの出荷の見込み。 ・長野産の出荷が平年並みと見込まれることから、価格は平年に近づくものの、現在平年を大幅に上回っていることから、引き続き平年を上回って推移する見込み。	
		62.79 88.72	89 (100%)	88.72	113 (127%)	149 (168%)	69.44	・入荷量: 3,531t ・主産地: 長野(99)		
	ほうれんそう	583.95	778 (133%)	583.95	813 (139%)	873 (149%)	385.11	・入荷量: 888t ・主産地: 群馬(28)、栃木(21)、茨城(18)、岩手(12)	・群馬産は、病害の発生は特段見られないものの、9月中旬までの曇雨天による日照不足の影響により生育が停滞しており、引き続き平年よりやや少なめの出荷の見込み。栃木産は、9月中旬までの曇雨天による日照不足と急激な気温の低下に伴い、生育が停滞していることに加え、病害も発生していることから、引き続き平年よりやや少なめの出荷の見込み。茨城産は、最近の気温の低下により生育が回復したことに加え、作付面積の増加もあり、引き続き平年よりやや多めの出荷の見込み。 ・茨城産の出荷が平年よりやや多めと見込まれるものの、群馬産、栃木産の出荷が平年よりやや少なめと見込まれることから、平年を上回っている価格は、引き続き平年を上回って推移する見込み。	
		670.86	744 (111%)	670.86	775 (116%)	895 (133%)	461.74	・入荷量: 388t ・主産地: 岐阜(81)、北海道(12)		
	レタス (結球)	158.27	142 (90%)	158.27	177 (112%)	266 (168%)	158.27	・入荷量: 8,475t ・主産地: 長野(82)、群馬(10)	・長野産は、9月中旬までの曇雨天による日照不足の影響で生育が停滞していることに加え、病害の発生も見られたことから、引き続き平年よりやや少なめの出荷の見込み。群馬産は、9月中旬までの曇雨天による日照不足の影響から、一部のほ場で病害が見られ、生育はやや不良であることから、引き続き平年よりやや少なめの出荷の見込み。 ・長野産及び群馬産の出荷が平年よりやや少なめと見込まれることから、現在平年を上回っている価格は、引き続き平年を上回って推移する見込み。	
		152.57	153 (100%)	152.57	186 (122%)	279 (183%)	152.57	・入荷量: 1,935t ・主産地: 長野(98)		
	たまねぎ	84.85	106 (125%)	76.15	92 (121%)	83 (109%)	76.15	・入荷量: 10,717t ・主産地: 北海道(89)	・北海道産は、生育期の天候に恵まれたことから、生育は順調で全般的に早生種は豊作傾向であることから、引き続き平年よりやや多めの出荷の見込み。 ・北海道産の出荷が平年よりやや多めと見込まれることから、現在平年並みの価格は、平年を下回って推移する見込み。	
		84.85	115 (136%)	76.15	98 (129%)	88 (116%)	76.15	・入荷量: 3,340t ・主産地: 北海道(60)、兵庫(39)		
果 菜 類	きゅうり	210.69	332 (158%)	210.69	411 (195%)	366 (174%)	262.75	・入荷量: 7,460t ・主産地: 福島(30)、岩手(11)、秋田(11)、群馬(10)、茨城(9)、埼玉(8)、宮城(7)	・福島産は、9月中旬までの曇雨天や低温の影響により生育が停滞していることから、引き続き平年よりやや少なめの出荷の見込み。岩手産は、9月中旬までの曇雨天や低温の影響により生育が停滞しており、引き続き平年よりやや少なめの出荷の見込み。秋田産は、出荷終盤を迎え減少傾向で、今後も引き続き平年よりやや少なめの出荷の見込み。 ・福島産、岩手産及び秋田産の出荷が平年より少なめと見込まれることから、平年を大幅に上回っている価格は、引き続き平年を上回って推移する見込み。	
		221.71	327 (147%)	221.71	433 (195%)	416 (188%)	284.72	・入荷量: 1,654t ・主産地: 北海道(34)、福島(24)、愛媛(13)		
	トマト (大玉)	229.51	341 (149%)	229.51	424 (185%)	378 (165%)	315.83	・入荷量: 7,654t ・主産地: 青森(19)、千葉(16)、北海道(16)、福島(13)、茨城(10)、群馬(9)	・青森産は、8月上中旬の高温・干ばつによる花落ちの影響が大きいことから、引き続き平年よりやや少なめの出荷の見込み。千葉産は、高温による花落ちと9月中旬までの曇天・低温による着色の遅れがあるものの、引き続き平年並みの出荷の見込み。北海道産は、7月下旬から8月上旬の高温による花落ちの影響に加え、最近の夜温が低いことによる着色不良もあり、引き続き平年よりやや少なめの出荷の見込み。福島産は、9月中旬までの曇天・低温の影響により、生育の停滞が見られ、引き続き平年よりやや少なめの出荷の見込み。 ・青森産、北海道産及び福島産の出荷が平年よりやや少なめと見込まれることから、平年を大幅に上回っている価格は、引き続き平年を上回って推移する見込み。	
		271.33	320 (118%)	271.33	395 (146%)	398 (147%)	337.88	・入荷量: 1,791t ・主産地: 北海道(44)、岐阜(28)、岡山(8)		
	なす	209.55	256 (122%)	209.55	377 (180%)	392 (187%)	301.00	・入荷量: 3,924t ・主産地: 栃木(31)、群馬(25)、茨城(23)、埼玉(8)	・栃木産は、9月中旬までの曇雨天に伴う日照不足や低温の影響による生育の停滞に加え、台風の影響による擦れ果で品質の低下が見られたことから、引き続き平年よりやや少なめの出荷の見込み。群馬産は、9月中旬までの曇雨天と低温の影響による生育の停滞に加え、台風の影響による擦れ果で品質の低下が見られたことから、引き続き平年よりやや少なめの出荷の見込み。茨城産は、9月中旬までの曇雨天と低温の影響により生育が停滞しており、引き続き平年よりやや少なめの出荷の見込み。後続の高知産は、病害の発生もなく概ね生育は順調であることから平年並みの出荷の見込み。 ・栃木産、群馬産及び茨城産の出荷が平年よりやや少なめと見込まれることから、平年を上回っている価格は、引き続き平年を上回って推移する見込み。	
		221.72	229 (103%)	221.72	297 (134%)	355 (160%)	263.21	・入荷量: 916t ・主産地: 山梨(23)、徳島(15)、大阪(13)、奈良(8)、京都(8)		
	ピーマン	263.58	367 (139%)	263.58	418 (159%)	521 (198%)	263.58	・入荷量: 2,507t ・主産地: 岩手(37)、茨城(36)、福島(12)	・岩手産は、9月中旬までの曇雨天・低温などの天候不順の影響から、引き続き平年よりやや少なめの出荷の見込み。茨城産は、8月上中旬の高温とその後の曇天の影響による着果不良から、引き続き平年より少なめの出荷の見込み。福島産は、病害の発生は特段見られないものの、9月中旬までの曇雨天による日照不足と低温の影響で生育の停滞が見られたことから、引き続き平年よりやや少なめの出荷の見込み。 ・岩手産、茨城産及び福島産の出荷が平年よりやや少なめと見込まれることから、平年を大幅に上回っている価格は、引き続き平年を上回って推移する見込み。	
		282.16	363 (129%)	282.16	400 (142%)	503 (178%)	282.16	・入荷量: 596t ・主産地: 青森(18)、兵庫(15)、福島(11)、北海道(10)、大分(10)、茨城(8)		
	根 菜 類	だいこん	94.60	118 (125%)	94.60	106 (112%)	105 (111%)	67.55	・入荷量: 11,684t ・主産地: 北海道(65)、青森(30)	・北海道産は、最近の適度な降雨により生育は順調で、平年よりやや多めの出荷であったが、これまでの前倒し出荷の影響で出荷終盤であることから、今後は平年よりやや少なめの出荷の見込み。青森産は、気温の低下に伴い、病害からの回復が見られ、生育は順調であることから、引き続き平年並みの出荷の見込み。 ・青森産の出荷が平年並みと見込まれるものの、北海道産の出荷が平年よりやや少なめと見込まれることから、現在平年を上回っている価格は、引き続き平年を上回って推移する見込み。
			100.39	111 (111%)	100.39	102 (102%)	105 (105%)	76.48	・入荷量: 3,202t ・主産地: 北海道(70)、青森(16)、岩手(6)	
		にんじん	123.08	142 (115%)	123.08	144 (117%)	150 (122%)	123.08	・入荷量: 7,483t ・主産地: 北海道(98)	・北海道産は、干ばつの影響で小ぶりであったが、最近の適度な降雨により肥大が促進されたことから生育は順調で、引き続き平年よりやや多めの出荷の見込み。 ・北海道産の出荷が平年よりやや多めと見込まれることから、現在平年を上回っている価格は、平年並みに推移する見込み。
	123.11		146 (119%)	123.11	147 (119%)	152 (123%)	123.11	・入荷量: 2,462t ・主産地: 北海道(99)		

注: 1 平均価格は、過去6年間の中央卸売市場の各指定野菜の卸売価格を物価指数で修正した価格の平均(消費税は除く)で、保証基準額の算定の基となる価格。
2 旬別平均販売価格の赤字は平均価格を150%以上回るもの、背景ありは保証基準額(平均価格の90%)を下回るもの(消費税は除く)。
3 単位は円/kg、上段は関東、下段は近畿ブロック。
4 入荷量は、東京都及び大阪市中央卸売市場の過去5年平均の数値である。
5 主産地は、関東農政局及び近畿農政局「野菜の入荷量と価格の見通し」による。東京都及び大阪市中央卸売市場への出荷の多い県名。()内は入荷シェアであり、関東は本年見込(さといもは前年実績)、近畿は前年実績。
6 コメントは、都道府県、出荷団体、都道府県野菜価格安定法人、卸売会社等からの聴取りをもとに機構が作成したもの。
7 平成25年8月20日版より、平均価格と旬別平均販売価格を一部の品目につき細分化し、ねぎについては関東は白ねぎ、近畿は青ねぎ、レタスについてはレタス(結球)、トマトについてはトマト(大玉)の数値を用いている。
8 はくさいの平均価格は、上段が7月1日~8月10日まで、下段は8月11日~10月15日までの価格である。

種類	8月の価格情報			9月の価格情報			10月	生育及び価格の10月上旬までの見通し	
	(参考) 保証基準額の算定の基となる平均価格	指定野菜の関東・近畿ブロック旬別平均販売価格	(参考) 保証基準額の算定の基となる平均価格	指定野菜の関東・近畿ブロック旬別平均販売価格		(参考) 保証基準額の算定の基となる平均価格			
				上旬	中旬				
いも類	さといも	242.66	375 (155%)	242.66	348 (143%)	338 (139%)	220.97	・入荷量：1,045t ・主産地：千葉(67)、宮崎(16)	・千葉産は、9月中旬までの曇雨天と台風18号の降雨の影響で掘り取り作業が遅れていることから、平年よりやや少なめの出荷となっているが、生育は概ね順調であることから、今後は平年並みの出荷の見込み。宮崎産は、9月下旬で出荷がほぼ切り上がる見込み。後続の埼玉産は、9月中旬までの日照不足などの影響は今のところ見られず、病害もなく生育は概ね順調であることから、引き続き平年並みの出荷の見込み。 ・千葉産及び埼玉産の出荷が平年並みと見込まれることから、価格は平年に近づくものの、現在平年を大幅に上回っていることから、引き続き平年を上回って推移する見込み。 ・北海道産は、概ね天候に恵まれ生育は順調で豊作傾向となっており、収穫作業も順調に進んでいることから、引き続き平年よりやや多めの出荷の見込み。 ・北海道産の出荷が平年よりやや多めと見込まれることから、平年を上回っている価格は、平年並みに推移する見込み。
		220.11	296 (134%)	220.11	404 (184%)	348 (158%)	217.56	・入荷量：257t ・主産地：愛媛(49)、宮崎(24)、大阪(13)、輸入(8)、奈良(4)	
	ばれいしょ	101.61	112 (110%)	101.61	111 (109%)	109 (107%)	96.99	・入荷量：7,650t ・主産地：北海道(96)	
		101.61	135 (133%)	101.61	116 (114%)	109 (107%)	96.99	・入荷量：3,455t ・主産地：北海道(95)	

注：1 平均価格は、過去6年間の中央卸売市場の各指定野菜の卸売価格を物価指数で修正した価格の平均(消費税は除く)で、保証基準額の算定の基となる価格。
2 旬別平均販売価格の赤字は平均価格を150%以上回るもの、背景ありは保証基準額(平均価格の90%)を下回るもの(消費税は除く)。
3 単位は円/kg、上段は関東、下段は近畿ブロック。
4 入荷量は、東京都及び大阪市中央卸売市場の過去5カ年平均の数値である。
5 主産地は、関東農政局及び近畿農政局「野菜の入荷量と価格の見通し」による。東京都及び大阪市中央卸売市場への出荷の多い県名。()内は入荷シェアであり、関東は本年見込(さといもは前年実績)、近畿は前年実績。
6 コメントは、都道府県、出荷団体、都道府県野菜価格安定法人、卸売会社等からの聴取りをもとに機構が作成したもの。
7 平成25年8月20日版より、平均価格と旬別平均販売価格を一部の品目につき細分化し、ねぎについてはねぎ(結球)、トマトについてはトマト(大玉)の数値を用いている。
8 はくさいの平均価格は、上段が7月1~8月10日まで、下段は8月11日~10月15日までの価格である。

2 野菜の需要動向

家計調査によると、7月の1人当たりの生鮮野菜の購入数量は、4,353gで前年比96%、購入金額は、1,966円で同111%となった。
また、小売物価統計によると、8月のキャベツの小売価格は、198円で過去5カ年平均比143%、レタスは、535円で同134%となり、キャベツ及びレタスは過去5カ年を大幅に上回った。

生鮮野菜の購入数量及び購入金額(1人当たりの購入数量と購入金額)

年	過去5カ年平均		平成26年		平成27年		前年比	購入金額(円)	前年比
	購入数量(g)	購入金額(円)	購入数量(g)	購入金額(円)	購入数量(g)	購入金額(円)			
1月	4,272	1,640	4,379	1,775	4,374	100	1,755	99	
2月	4,485	1,666	4,646	1,742	4,609	99	1,761	101	
3月	4,868	1,811	4,958	1,878	4,921	99	1,939	103	
4月	4,765	1,855	4,871	1,887	4,693	96	2,070	110	
5月	5,089	1,917	5,146	1,993	4,968	97	2,257	113	
6月	5,056	1,902	4,998	1,976	5,044	101	2,157	109	
7月	4,402	1,737	4,542	1,770	4,353	96	1,966	111	
8月	4,315	1,731	4,275	1,846					
9月	4,688	1,844	4,745	2,035					
10月	5,191	1,902	5,455	1,973					
11月	4,990	1,700	5,291	1,704					
12月	5,146	1,927	5,233	1,977					

資料：総務省「家計調査報告(二人以上世帯(農林漁家世帯を除く))」
注：過去5カ年平均は、平成22~26年の平均。

主要野菜の小売価格(東京都区部)(単位：円/kg)

	キャベツ			レタス		
	過去5カ年平均	平成27年	5カ年比(%)	過去5カ年平均	平成27年	5カ年比(%)
1月	212	229	108	684	827	121
2月	223	202	91	631	576	91
3月	205	169	82	500	511	102
4月	243	255	105	453	555	123
5月	163	273	168	365	440	121
6月	137	188	137	317	392	124
7月	160	167	104	332	437	132
8月	138	198	143	400	535	134
9月	158			591		
10月	174			469		
11月	164			429		
12月	172			546		

資料：総務省「小売物価統計調査報告」
注：1 過去5カ年平均は、平成22~26年の平均。
2 平成27年8月の値は、8月中旬の速報値。

3 野菜の輸入動向

8月の野菜の輸入を植物防疫統計で見ると、たまねぎは、前年比90%(中国は同94%、タスマニアは同237%)の2万2千トン、にんじんは、同103%(中国は同103%、オーストラリアは同713%)の5千7百トン、ねぎは、101%(中国は同101%)の4千3百トンとなった。たまねぎは前年を下回ったものの、にんじん、ねぎは前年を上回った。

野菜の輸入数量

区分	平成25年		平成26年		平成27年1月~7月		平成27年7月	
	数量	前年比	数量	前年比	数量	前年同月比	数量	前年同月比
生鮮野菜	854,420	90	884,735	104	536,596	92	70,025	107
加工野菜	1,854,679	97	1,785,487	96	1,040,014	95	154,809	96
野菜合計	2,709,100	95	2,670,222	99	1,576,610	94	224,834	99
うち中国産野菜合計	1,416,557	97	1,409,604	100	787,138	95	120,207	102
中国産シェア	52		53		50		53	

資料：農産産業振興機構「ベジ探」(原資料：財務省「貿易統計」)

主な野菜の輸入数量

品目	輸入先	平成26年8月(A)	平成27年8月(B)	(B)/(A)
		数量	数量	(%)
たまねぎ	合計	24,006	21,711	90
	中国	22,437	21,026	94
	タスマニア	166	393	237
にんじん	合計	5,505	5,695	103
	中国	5,422	5,579	103
	オーストラリア	11	80	713
ねぎ	合計	4,243	4,268	101
	中国	4,241	4,266	101

資料：農林水産省「植物防疫統計」
注1：平成27年8月は速報値。
注2：輸入数量は、検査数量である。
注3：冷凍を除く。

4 トピック — 天候不順の影響が続く果菜類の需給・価格動向について —

本年は、3月の西南暖地における曇天や低温に続き、4月は関東近県も含めて記録的な低温と曇雨天となり、さらにその後も干ばつ、高温、低温、曇雨天が9月までの間に断続的に続いた。

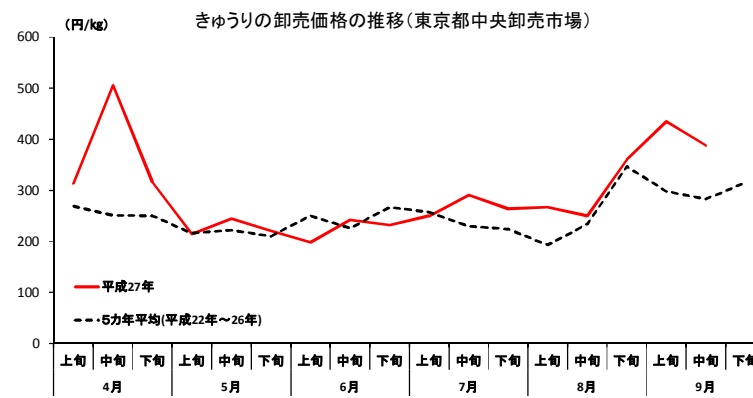
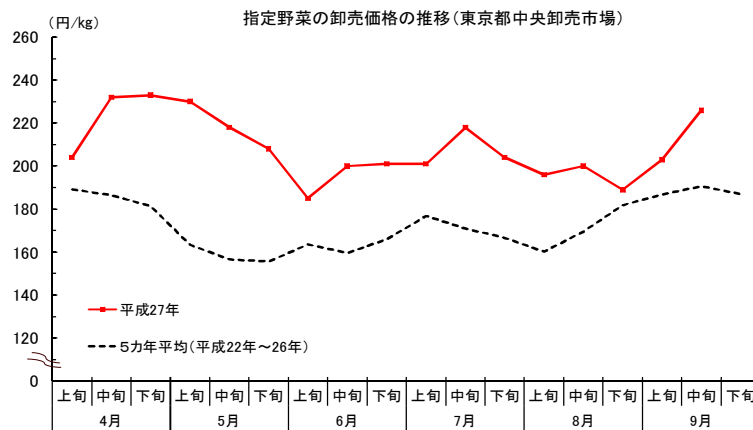
このため、本年4~9月期の指定野菜の卸売価格は、すべての旬で平年を上回って推移しており、これは、記録的な猛暑となった平成22年以後のことである。

旬別にみると、特に4月中旬から5月上旬に高騰し、その後は一時好天となったものの、7月中旬から8月中旬にかけての干ばつや高温など、各産地で天候不順となったことから、引き続き卸売価格は高値で推移した。さらに、8月中旬以降はそれまでの猛暑から一転して低温、曇雨天が9月上旬まで続いたことから、9月上旬以降も卸売価格は堅調に推移している。

このように断続的に続く天候不順の下では、日照不足による草勢低下や着色不良、急激な気温変動に伴ういわゆる花落ち現象など、特に果菜類が影響を受けやすい傾向がみられる。

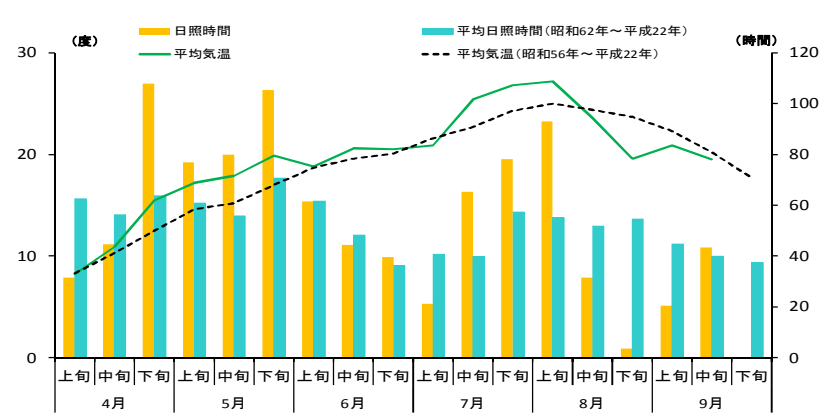
例えば、きゅうりは4月の天候不順から顕著な高値となり、5月以降は好天により回復傾向となり、概ね平年並みで推移していたものの、8月中旬以降、猛暑から一転した低温曇雨天により、卸売価格は上昇した。ピーマンもきゅうりと同様に、5月以降は4月の高値から一時回復傾向となったものの、7月には夏場の主産地である東北の産地において、干ばつ等の影響が卸売価格に影響を与えた。8月中旬以降の天候不順も、きゅうり同様に、トマトとなすも含めた果菜類全体に影響を及ぼして卸売価格が上昇した。

このように野菜の中で、果菜類は天候不順が価格上昇を引き起こしやすく、かつその影響が長引く傾向がみられ、そのことが、高値基調が続く最近の指定野菜全体の価格水準にも影響をもたらしていると思われる。野菜産地では、これから夏秋野菜から秋冬野菜へと産地が入れ替わる時期を迎えることから、9月下旬の全国的な好天以降の気象推移や需給・価格動向を注視していく必要がある。

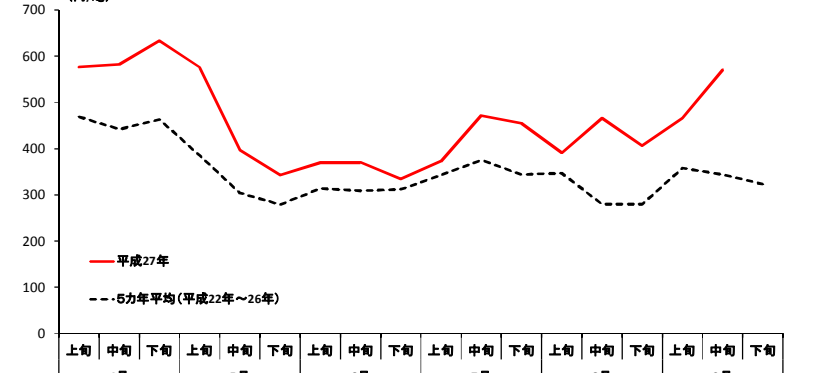


資料：農産産業振興機構「ベジ探」(原資料：青果物情報センター、気象庁)

平成27年の気象状況(福島県郡山市)



ピーマンの卸売価格の推移(東京都中央卸売市場)



●問い合わせ先 独立行政法人農産産業振興機構 野菜需給部 需給業務課 戸田、河原、齋藤、海老沼 TEL03-3583-9448、FAX03-3583-9484 ご意見、ご要望をお寄せください。
◆「野菜の需給・価格動向レポート」は月2回公表しています。公表時にメルマガでお知らせしますので、ご希望の方はベジ探のトップ画面、メルマガ配信登録・解除ボタンから登録してください。
★この「野菜の需給・価格動向レポート」は、http://vegetan.alic.go.jp/vegetable_report.html に掲載しています。
※無断転載せず ・レポートに記載された情報をご利用になったことにより生じたいかなる損害に関しても、当機構は一切の責任を負いません。